



イズモタンク：耐重量にあわせたラインナップを用意

ゴムと金属の複合加工。 こだわりの技術で高品質を維持

株式会社 出雲

事業内容と沿革

さまざまな素材を扱う “ものづくりの百貨店”

産業用の部品製造、精密機械加工を幅広く手がける。ゴム、樹脂、金属という異なる素材をトータルに扱うことから、大坪勤社長は自社を「ものづくりの百貨店」と称する。素材ごとに異なる特徴を的確にとらえたうえで、顧客に対して提案営業している。主力は金属加工で、売り上げ全体の50%を占めている。ゴム加工のノウハウの蓄積が高く、ゴムと金属の複合加工も大きな強み。素材の相性を考慮したうえでゴムの焼き付け・まき付け・圧着などに対応した各種ゴムローラーの製造などには定評がある。射出成形では、設計段階から顧客と徹底的にディスカッションすることで精度向上に努める。中でも、300℃まで耐えられる超耐熱の樹脂成形に対応できる業者は少ない。創業は昭和54年で、大坪社長が個人経営ではじめた「出雲ゴム製作所」が始まり。当初はゴム製品のみだったが、樹脂や金属の加工にも事業を拡大。そして金属加工が主力を占めるようになり、平成8年には「(株)出雲」を設立した。しかし、海外からの安い製品が流入しはじめた1990年代以降、厳しい価格競争にさらされる。現在は自社製品の「イズモタンク」を軸に経営の多角化を進めている。

強み

溶接加工で高い剛性を実現

ゴム、樹脂、金属の複合加工技術を生かし、ノウハウを集めて開発した自社製品が、荷役用の小型台車「イズモタンク」。金属性のボディーとゴムローラーというシンプルな構造で、工場内の重い機材や資材の搬送などに利用されている。特徴の1つは溶接加工で製造している点で、「搬送用台車といえば鍛造加工が主流だが、これだと十分な“剛性”を発揮できない」と大坪社長はその理由を語る。剛性とは、ねじれやたわみに対する変形のしづらさのことで、壊れにくさを示す“強度”とは異なる。重い荷物を載せている状態で進行方向を急に変えるような場面では、この剛性の高さが製品の善し悪しを決める。また、ローラーを支えるシャフトも焼き入れ加工を施すことで強度を高め、ベアリングが傷まないように工夫している。溶接加工も焼き入れ加工も手間のかかる作業だが、これらの加工法を採用することで品質向上を図っている。また、もう一つの特徴はメンテナンス性の高さ。構造がシンプルのため、分解が簡単で掃除も容易にできる。ゴムローラーは製品の耐衝撃性を高めているが、どうしてもすり減ってしまう消耗品。長期間使用するとゴムの巻き替えが必要となるが、スペア品の要望があれば郵便などで素早く対応する。他社が敬遠するようなきめ細かな作業もいとわず行うことで、アフターメンテナンスの充実も図っている。



マシニングセンター：大幅な加工時間の短縮に貢献



イズモタンクの裏面：ゴムの巻き替えにも素早く対応



旋盤と難削材：素材の特徴に合わせて加工

- 企画・提案
- 試作・受託
- 短納期対応
- 多品種少量
- 量産対応
- コスト相談
- オンラインワン
- 海外対応

カドマイスターの取り組み

精力的な営業と地域貢献活動

大坪社長は経営者であると同時に営業担当でもある。業績を伸ばしそうな会社を徹底的に調べ、自ら全国へ営業に出向く。そうした地道な顧客とのコミュニケーションが事業の幅を広げてきた。また、松下電器産業(株)〈現パナソニック(株)〉の下請け時代が長く、厳しい品質監査を受けてきた。その経験が大きな財産となり、営業先でも高い評判を得ている。一方、SCR(社会貢献)活動にも積極的で、特徴的なのがインターシップ学生の受け入れ。平成17年頃から毎年1回、5名程度の大学生や高校生を受け入れている。その背景には、人材の確保と会社のPRだけでなく、「職業体験を通じて、ものづくりの楽しさを知ってもらいたい」という大坪社長の地域貢献への強い思いがある。平成27年4月に設立された「守口門真日本中国友好協会」をはじめ、大阪府門真市や故郷である島根県の経済団体にも加盟し、地域経済活性化のための意見交換を精力的に行っている。

今後の展開

加工業からメーカーへの 転身を目指して

大坪社長が強く目指すのは、“加工業からメーカーへの転身”。今やメーカーからの依頼に応えたものづくりだけで生き残るのは難しい時代だと考えている。そのために、「イズモタンク」をはじめとする自社製品の商品展開を増やしていく計画。現在、この製品シリーズは工場内の作業だけでなく、電車の車両や飛行機の機体などに使われる巨大な資材の運搬にも使用されている。産業用から家庭用まで、新しい市場に参入できる余地は大きい。月間の売上高は現在150万円前後だが、今後は500万円程度に増やすことを当面の目標とする。また、次世代ロボット開発ネットワーク「RooBo」の会員として、大学と連携しながら産業用・おもちゃ用のロボット部品の製造も手がける。ゴム・樹脂素材は防水性・防食性が高いため、水中で活動する魚型ロボットの外側表面への利用などに生かされる可能性を秘める。こうした積極的な企画・開発を推進するため、現在はクリエイティブ系の人材の確保を急いでいる。

ゴム、樹脂、金属の複合加工で
こだわりの高品質



代表取締役
大坪 勤 さん

ゴムの加工からスタートしましたが、その後、樹脂や金属も手がけるようになり、現在ではあらゆる素材の加工について豊富なノウハウがあります。これまで素材ごとに専門の業者に任せることが多かった下請け加工業のなかで、異なる素材を一括して対応できるのは大きな強みであると考えています。他社が敬遠するような手間がかかる作業もこなし、品質向上には妥協しません。しかし今や、下請け受注だけでは生き残るのは困難な時代。今後は、「イズモタンク」のような自社製品の開発を強化し、「オンラインワン」の技術を持つメーカーへの転身を目指しています。

主な事業内容

ゴム、樹脂、金属の部品製造・加工・販売

主な取引先(納入先)

パナソニック(株)、パナソニックファクトリーソリューションズ(株)、日本ニューマチック工業(株)など

【住 所】〒571-0017 大阪府門真市四宮3-9-18
【T E L】072-887-6226
【F A X】072-887-6227
【創 業】昭和54年2月 【設 立】平成8年5月
【資本金】1,000万円 【従業員】12名

<http://www.izumo-web.co.jp/>

